

2025年9月期 第2四半期 決算説明会

三洋貿易株式会社（証券コード：3176）

2025年5月15日

上半期のハイライト

- 1 売上は過去最高を更新、営業利益は成長投資により前年比減**
- 2 期首想定通り、サステナビリティセグメント好調で不振部門をカバー**
- 3 潜在コア事業の入れ替えを実施。SV2028※目標達成確度を高める**
- 4 マクロの不透明感に鑑み、通期業績予想は据え置き(関税の影響は限定的)**

※SV2028:SANYO VISION 2028。23年11月に公表した5か年長期経営計画
(以下、同)

目次

- 01 2025年9月期 上半期実績
- 02 2025年9月期 通期業績予想
- 03 SANYO VISION 2028の進捗
- 04 成長への布石

01

01

2025年9月期 上半期実績

02

2025年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

2025年9月期 上半期 連結実績

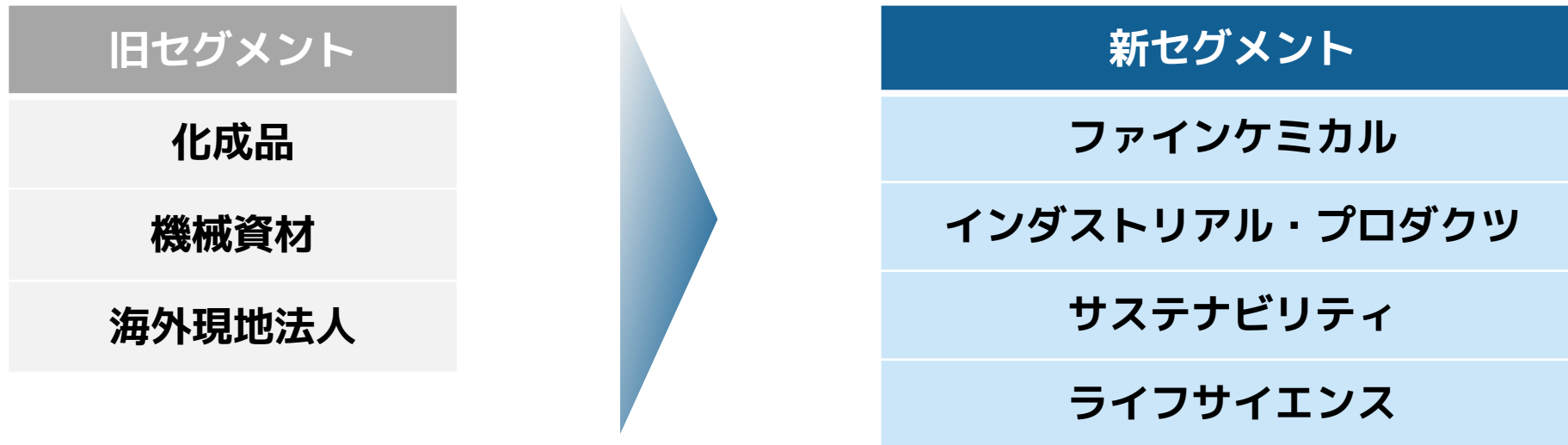
- 売上は好調。営業利益は人員増や新基幹システム等の成長先行投資もあり前年比減
- 通期計画進捗率：売上51.6%、営業利益57.8%と順調
- 当期純利益は投資有価証券売却益で前年比増

(単位：百万円)	2024年9月期	2025年9月期			
	上半期	上半期		通期	
	実績	実績	前期比	通期計画 (2024/11/7公表)	進捗率
売上高	64,928	68,129	+4.9%	132,000	51.6%
売上総利益 (売上総利益率)	11,523 (17.7%)	11,815 (17.3%)	+2.5%		
販売費及び 一般管理費	7,205	7,711	+7.0%		
営業利益 (営業利益率)	4,317 (6.6%)	4,104 (6.0%)	▲4.9%	7,100 (5.4%)	57.8%
経常利益 (経常利益率)	4,935 (7.6%)	4,410 (6.5%)	▲10.6%	7,500 (5.7%)	58.8%
親会社株主に帰属 する当期純利益	3,145	3,451	+9.7%	4,900	70.4%
EPS(円)	109.32	119.86	-	170.11	-

お知らせ【再掲】

- 2025年9月期第1四半期より報告セグメントを変更 (2024/9/10に開示済み)
- 目的：市場へのディスクロージャー、経営資源の最適配分、業績モニタリング

(報告セグメント)



(地域別売上)

- 日本、北米、中国、ASEAN、その他(インド・欧州等)に変更

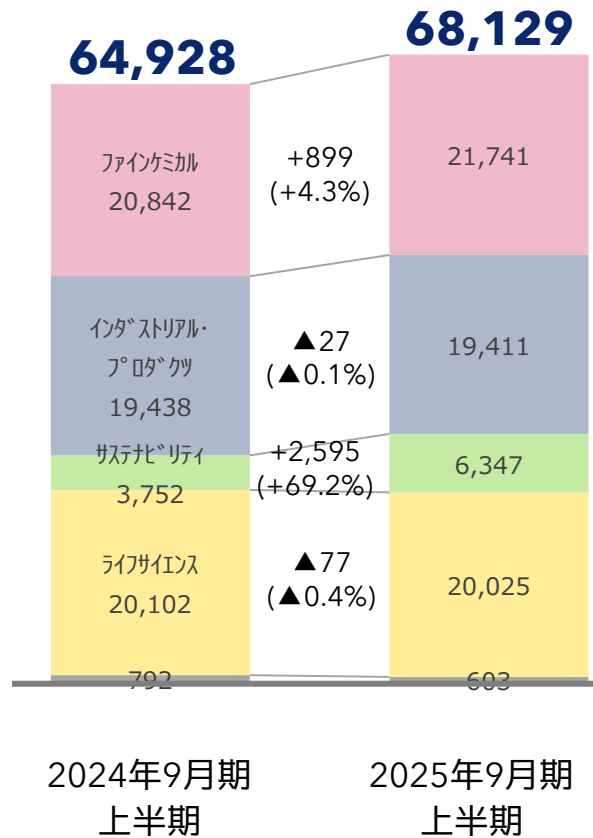
※変更前は日本、アメリカ、中国、その他

セグメント別 決算サマリー

売上高 前年同期比

+ 32.0億円 (+ 4.9%)

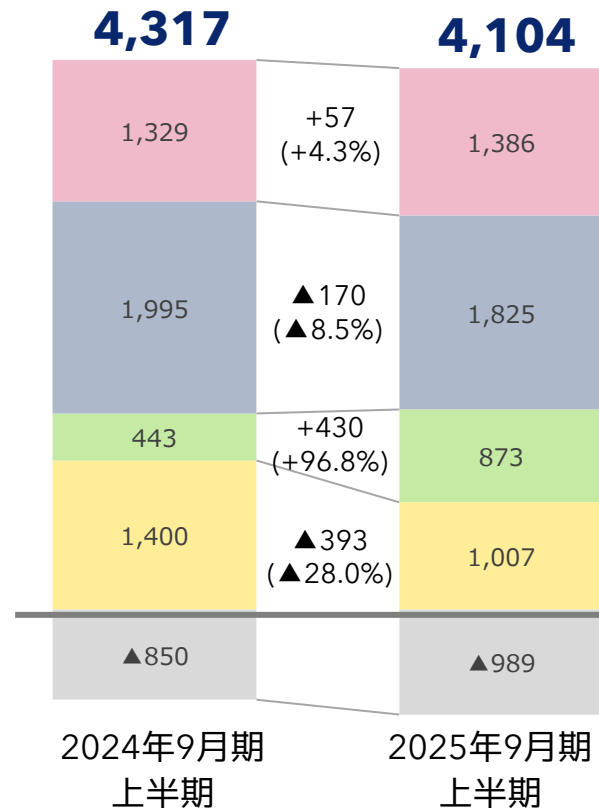
(単位：百万円)



営業利益 前年同期比

▲ 2.1億円 (▲ 4.9%)

(単位：百万円)



ファインケミカル 増収・増益

インダストリアル・プロダクツ 減収・減益

サステナビリティ 増収・増益

ライフサイエンス 減収・減益

セグメント別 構成比率



ゴム関連



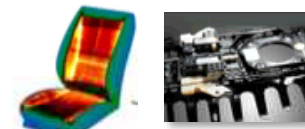
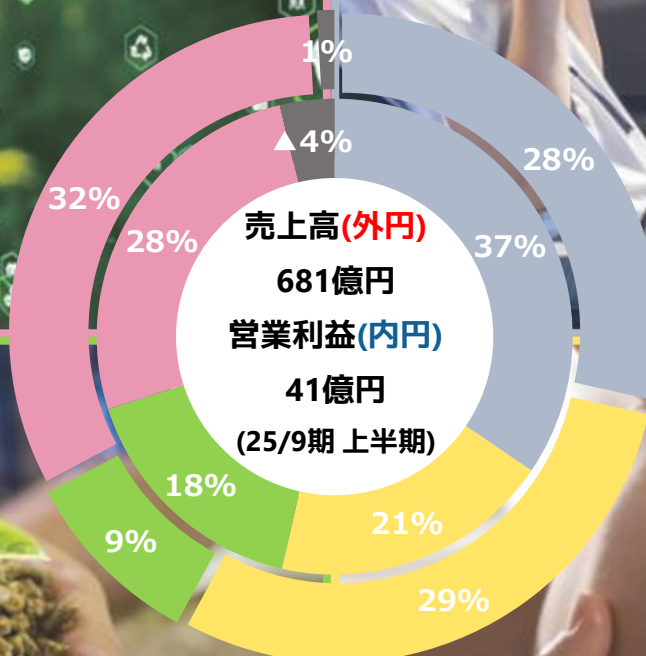
化学品関連



木質バイオマス関連



洋上風力
海洋調査関連



自動車内装部材



スキャンングによる
ベンチマーキングサービス



電子材料



検査機器

注:セグメント別売上高・営業利益比率は、連結調整前の数値をもとに算出

セグメント別概況：ファインケミカル

(単位：百万円)	2024年9月期 上半期	2025年9月期 上半期	前期比
売上高	20,842	21,741	+4.3%
営業利益 (営業利益率)	1,329 (6.4%)	1,386 (6.4%)	+4.3%

増減要因	
売上高	ゴム : +)国内向け原材料需要の好調継続。 円安進行を受けた輸入品の販売価格見直し 化学品 : -)市況影響を受け主力商材需要が弱含み。 円安進行を受けた輸入品の仕入価格上昇
営業利益	ゴム : +)売上増加や販売価格見直しで利益増 化学品 : -)売上減少と仕入れ価格上昇

【主な取扱い製品】



合成ゴム



熱可塑性エラストマー・樹脂



ゴム補強・充填材

<最終用途>

- ・ 自動車用シール材
- ・ 高圧ホース
- ・ タイヤ
- ・ 家電製品



光重合開始剤/紫外線吸収剤



顔料



スペシャリティモノマー



ワックス



シランカップ
リング剤

<最終用途>

- ・ インキ・印刷物
- ・ 外壁用塗料
- ・ 接着剤
- ・ プラスチック製品

セグメント別概況：インダストリアル・プロダクツ

(単位：百万円)	2024年9月期 上半期	2025年9月期 上半期	前期比
売上高	19,438	19,411	▲0.1%
営業利益 (営業利益率)	1,995 (10.3%)	1,825 (9.4%)	▲8.5%

増減要因	
売上高	国内： -)自動車シート用本革の取扱い終了影響 +)販売価格見直しや為替差益の寄与 海外： +)米国、メキシコの自動車関連好調 -)中国の景気減速と競争激化による日系自動車メーカーの減産
営業利益	-) 上記売上減少に伴う利益減

【主な取扱い製品】



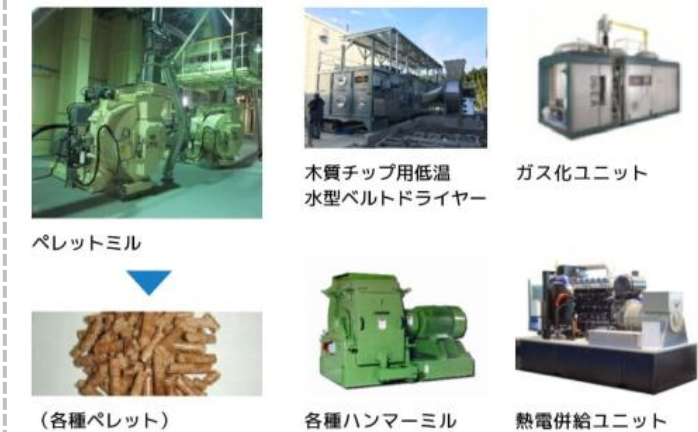
セグメント別概況：サステナビリティ

(単位：百万円)	2024年9月期 上半期	2025年9月期 上半期	前期比
売上高	3,752	6,347	+69.2%
営業利益 (営業利益率)	443 (11.8%)	873 (13.8%)	+96.8%

増減要因	
売上高	+) 飼料加工機器の関連消耗品販売好調。 木質バイオマス関連事業で大型案件の計上 +) 海洋調査資機材中心に海洋開発が牽引。 地熱、石油・ガス機材も好調
営業利益	+) 上記売上増加に伴う利益増

【主な取扱い製品】

< 飼料用加工機器・木質バイオマス関連 >



< 最終用途 >

- ・ 飼料・肥料
- ・ 食品・工業製品等
- ・ 再生可能エネルギー

< 洋上風力・海洋調査関連 >



< 最終用途 >

- ・ 石油・ガス
- ・ 地熱開発
- ・ 洋上風力発電
- ・ 海洋調査

セグメント別概況：ライフサイエンス

※LS:ライフサイエンス

(単位：百万円)	2024年9月期 上半期	2025年9月期 上半期	前期比
売上高	20,102	20,025	▲0.4%
営業利益 (営業利益率)	1,400 (7.0%)	1,007 (5.0%)	▲28.0%

増減要因	
売上高	+) LS※:円安を背景に電材の輸出増 -) 科学機器:需要弱含みや円安影響に伴う仕入価格上昇 +) ワイピーテック:機能性飼料原料の販売数量増 -) スクラム:バイオ関連機器の契約終了影響
営業利益	-) 上記売上減少に伴う利益減(バイオ関連機器影響大)

【主な取扱い製品】

<ライフサイエンス関連>



電子材料



各種フィルム



化粧品(原料/容器)



FoodTech



香料



高機能性樹脂

<最終用途>

- ・ 電子機器／バッテリー
- ・ 芳香剤
- ・ ペットフード
- ・ オムツ

<科学機器関連>



濡れ性評価装置



粒子評価装置



耐候性試験機

<最終用途>

- ・ 研究開発 (R&D)
- ・ 品質管理
- ・ 生産管理
- ・ 検査

<バイオテクノロジー関連>



3Dバイオプリンター



遺伝子解析次世代シーケンサー (NGS)



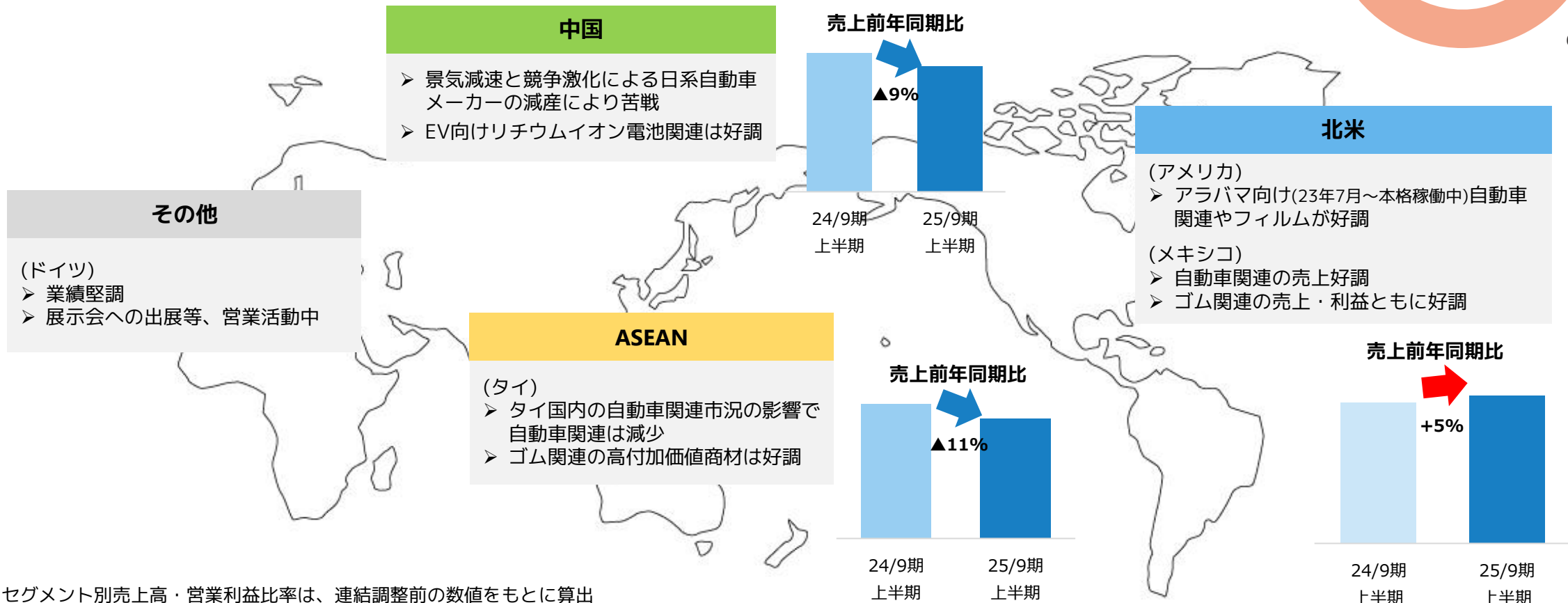
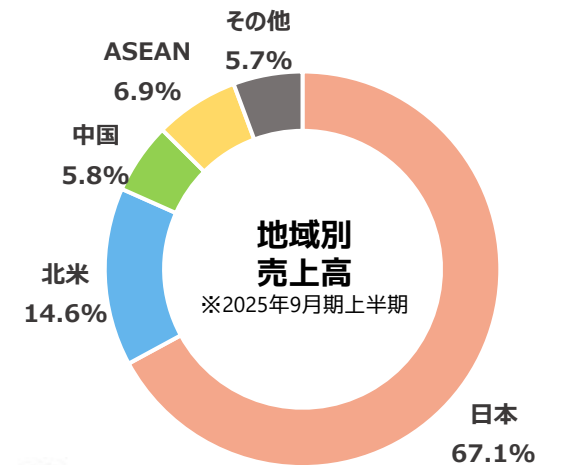
遺伝子発現解析サービス、創業支援サービス

<最終用途>

- ・ 遺伝子研究
- ・ 細胞研究
- ・ タンパク質研究
- ・ 病理研究
- ・ 創業支援

地域別売上高と状況

- 海外売上前年比▲0.6%。北米が好調。中国は景気減速と競争激化により減速
- 海外拠点主導で、地場オリジネーション事業開拓中



注:セグメント別売上高・営業利益比率は、連結調整前の数値をもとに算出

02

01

2025年9月期 上半期実績

02

2025年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

2025年9月期 業績予想

- 上半期は順調に進捗するも、マクロ環境の不透明感に鑑み、通期業績予想は据え置き
- 関税の影響は限定的

	2024年9月期実績		2025年9月期予想	
	実績	前期比	予想	前期比
売上高	129,263	+7.2%	132,000	+2.1%
売上総利益 (売上総利益率)	22,229 (17.2%)	+10.6%		
販売費および 一般管理費	15,156	+11.6%		
営業利益 (営業利益率)	7,072 (5.5%)	+8.4%	7,100 (5.4%)	+0.4%
経常利益 (経常利益率)	7,905 (6.1%)	+11.5%	7,500 (5.7%)	▲5.1%
親会社株主に帰属 する当期純利益	5,207	+8.8%	4,900	▲5.9%
EPS(円)	180.88	-	170.11	-

2025年9月期 セグメント別業績予想

■ セグメント別業績予想も変更無し。バイオ関連機器の代理店契約終了等の影響を受けつつも、木質バイオマス関連や洋上風力機器の収益貢献を見込む

(単位：百万円)	売上高			営業利益		
	2024年9月期 実績	2025年9月期 予想	前期比	2024年9月期 実績	2025年9月期 予想	前期比
ファインケミカル	42,784	45,000	+5.2%	2,715	2,800	+3.1%
インダストリアル・ プロダクツ	36,915	36,000	▲2.5%	3,380	3,100	▲8.3%
サステナビリティ	9,764	13,000	+33.1%	1,205	1,700	+41.1%
ライフサイエンス	38,311	37,000	▲3.4%	1,733	1,400	▲19.2%
その他	1,488	1,000	-	▲1,960	▲1,900	-
合計	129,263	132,000	+2.1%	7,072	7,100	+0.4%

キャッシュアロケーション

キャッシュイン キャッシュアウト (24.9~28.9の5年累計)

- 財務規律の範囲内で財務レバレッジを機動的に活用

【財務規律（目安）】

自己資本比率：50%以上
D/Eレシオ：0.5倍未満

- 営業CFの着実な積み上げ

資産売却・借入等
100億円～

営業CF
280億円

成長投資
200億～
300億円

株主還元
85億円～

- 成長分野にボルトオン型のM&Aを検討

モビリティ

再生可能
エネルギー

環境関連

ヘルスケア

食と農

...etc.

- 人的資本投資：「人のSanyo」のための採用、教育、研修等
- DX関連投資：新基幹システム
(24年10月稼働開始)

- 「配当性向30%以上」を目途に「累進配当」を継続

株主還元

- 継続的な増配・安定配当を行う基本方針のもと、SANYO VISION 2028期間の配当は、**「配当性向30%以上」**を目途に**「累進配当」**を継続

(配当額：円)

1株あたり配当推移

■ 中間配当 ■ 期末配当

SANYO VISION 2028期間は
「配当性向30%以上」・**「累進配当」**

SANYO VISION 2028期間

年間
配当予想
57円

29
(予想)

28

33

22

21

19

19

20

19

18.5

18.5

15

17

15.5

11.5

13

12.5

12

9.5

7.5

7.5

12.5

2012.9 2013.9 2014.9 2015.9 2016.9 2017.9 2018.9 2019.9 2020.9 2021.9 2022.9 2023.9 2024.9 2025.9 2028.9

配当性向

25%

29%

25%

25%

25%

25%

25%

26%

36%

26%

27%

26%

30%

30%以上

03

01

2025年9月期 上半期実績

02

2025年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

SANYO VISION 2028 財務目標の進捗状況

- SV2028の2年目。2028年の目標達成に向けて視界良好
- PBRは前期末比較で低下。引き続きPBR>1倍に向け企業価値向上に努める

	目標 (2028年9月期)	結果 (2024年9月期 通期)	結果 (2025年9月期 上半期)	評価
ROE	10～12%	11.4%	10.3% ※2025年9月期予想値	○
営業利益	90億円	70億円 (上方修正目標達成)	71億円 ※2025年9月期予想値	○
営業利益率	5.1%	5.5%	6.0%	◎
営業CF	黒字	54億円(黒字)	43億円(黒字)	○
自己資本比率	50%以上	63.3%	65.0%	○
PBR	1倍超	0.92	0.89 ※2025年3月末	△

2028年9月期に向けた成長戦略

- SANYO VISION 2028の目標 **営業利益90億円**達成に向け、投資を有効的に実施
- 成長戦略は「**三本の矢**」

成長投資の対象

総額200～300億円の成長投資を予定
(24/9～28/9)

事業投資

人的資本
投資

DX関連
投資

成長戦略：三本の矢

- 潜在コア事業の果実化
- M&Aの推進
- スタートアップ投資への取り組み

営業利益額の推移
(単位：億円)

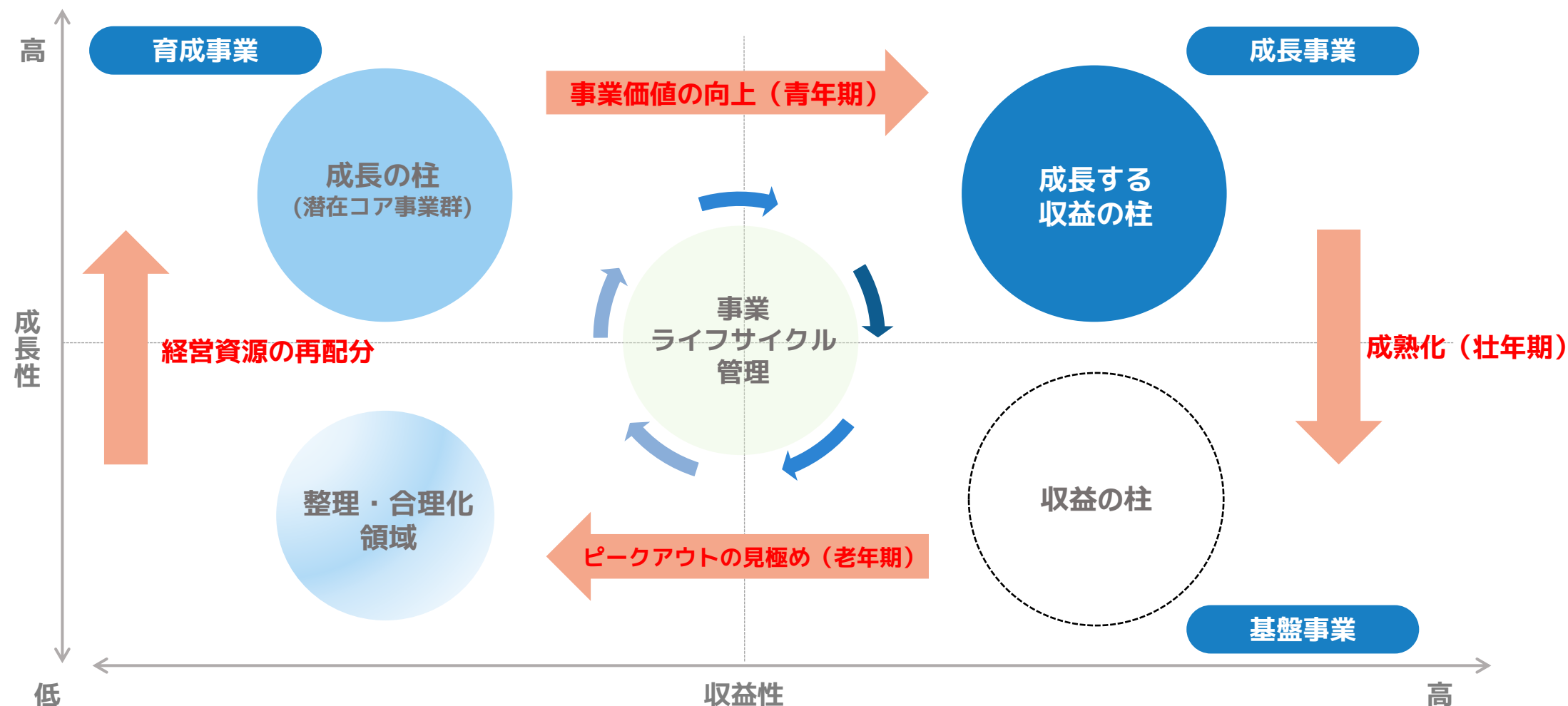


SANYO VISION 2028期間

90

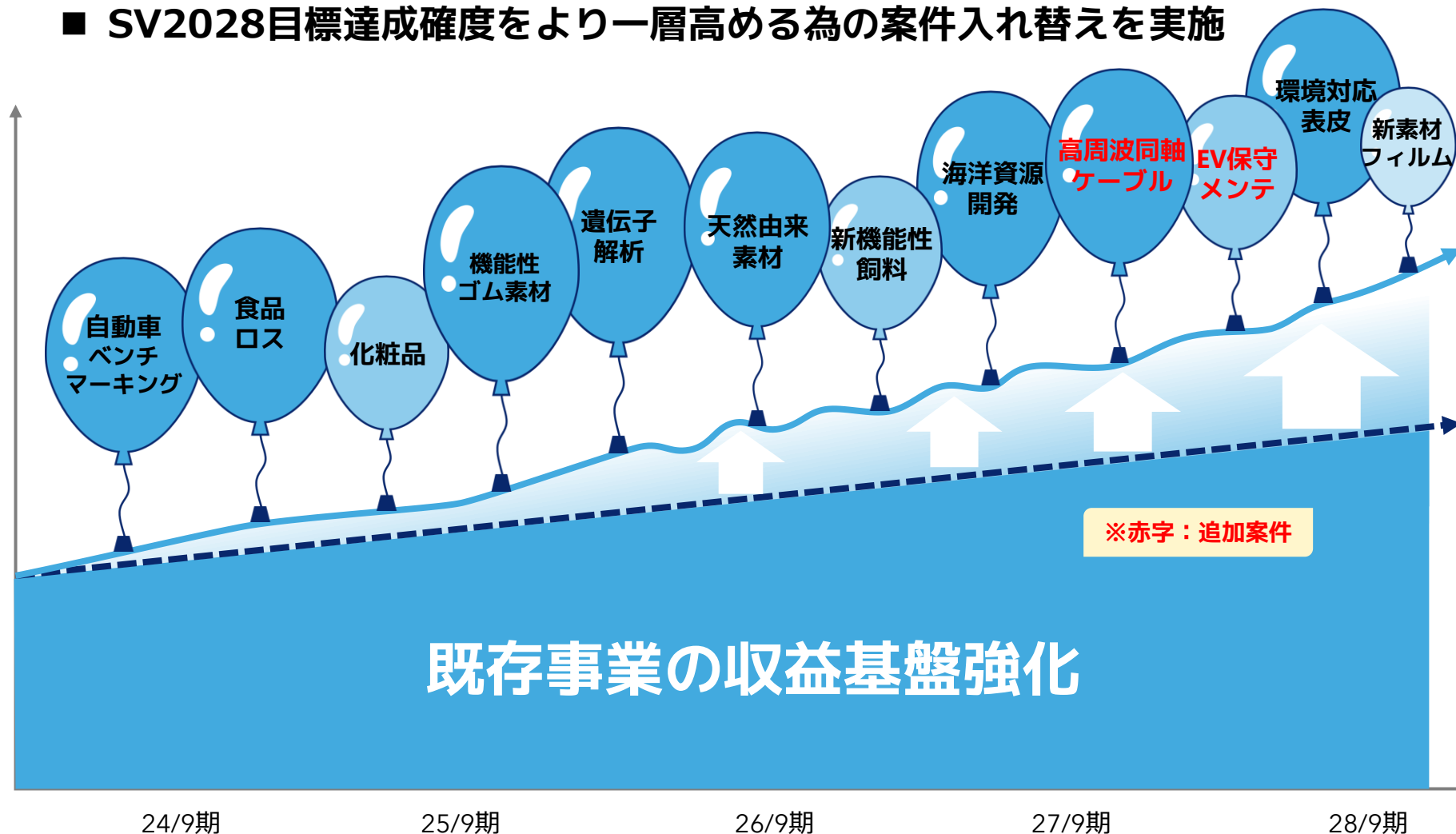
事業ポートフォリオの不断の組み換え

- 将来の収益の柱となる事業の発掘・育成を推進
- 経営リソースを戦略的に傾斜配分し、成長を加速

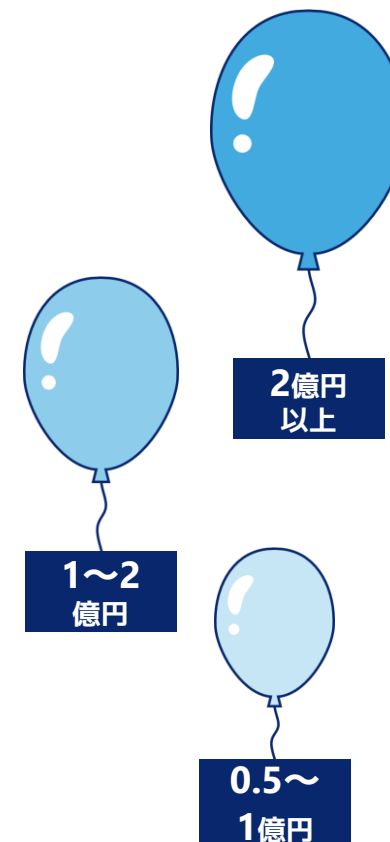


潜在コア事業案件の進捗

- 将来の柱商内となる潜在性を秘めた案件開拓と果実化を推進
- SV2028目標達成確度をより一層高める為の案件入れ替えを実施



営業利益



04

01

2025年9月期 上半期実績

02

2025年9月期 通期業績予想

03

SANYO VISION 2028の進捗

04

成長への布石

潜在コア事業の例①（機能性ゴム素材）

ファインケミカル

※Dowhon社:

フッ素ゴムに薬品をあらかじめ配合したプリコンパウンドの中国大手メーカー。フッ素ゴムは耐熱性、耐油性、耐薬品性に優れた特性を持ち、自動車のホースほか機能性ゴム部品に使用される。



- 中国/Dowhon社※フッ素ゴム製品の拡販。安定した供給体制構築に注力し、基幹商材への成長を目指す
- PFAS（有機フッ素化合物）問題に対応した製品の販売を通じて、サステナビリティに貢献

両社の強みを活かした相乗効果

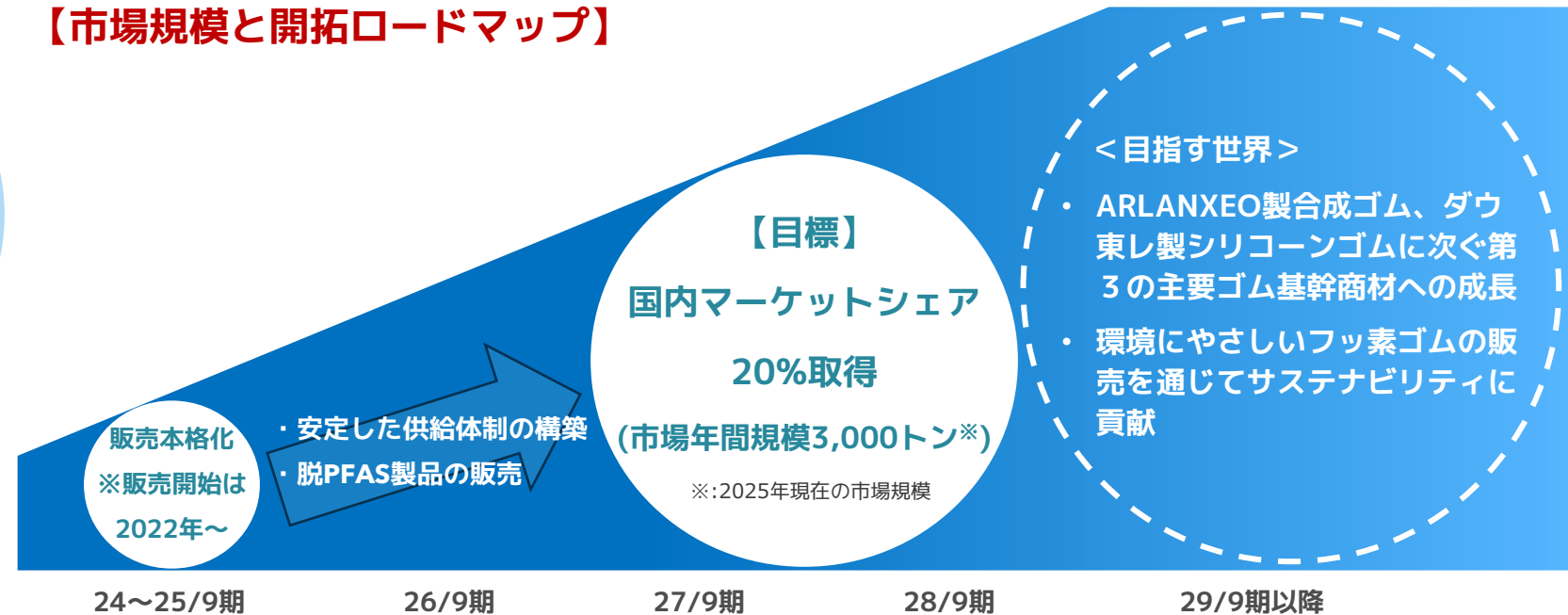
三洋貿易

安全在庫の確保
グローバル
ネットワーク

Dowhon社

世界有数の
供給能力
高い技術力

【市場規模と開拓ロードマップ】



潜在コア事業の例② (EV・PHEVバッテリー診断機)

インダストリアル・プロダクツ

■ ベンチマーキング事業で得たEVに関する知見を生かし、コンパクトで手頃価格の診断機をリリース

【開発の背景】 ～問題意識～

①残価率の低さ

バッテリーの劣化度が測定できていない
中古EV市場が未確立(評価、価格査定に影響)

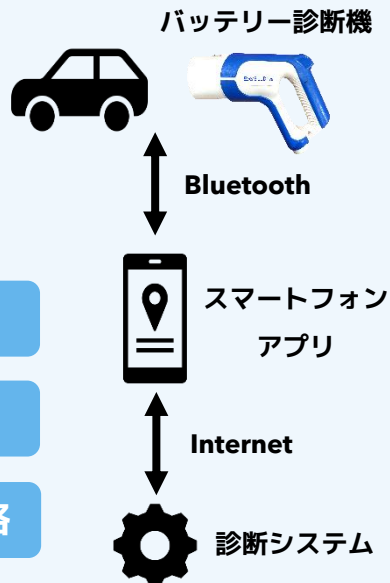
②海外への輸出増

希少金属が流出。国内の循環型社会実現
を阻害

③EVの安全性

バッテリーは高電圧・大電流を扱うため、
安全性に配慮した機器の開発・提供が必要

バッテリー診断機「ETX010」

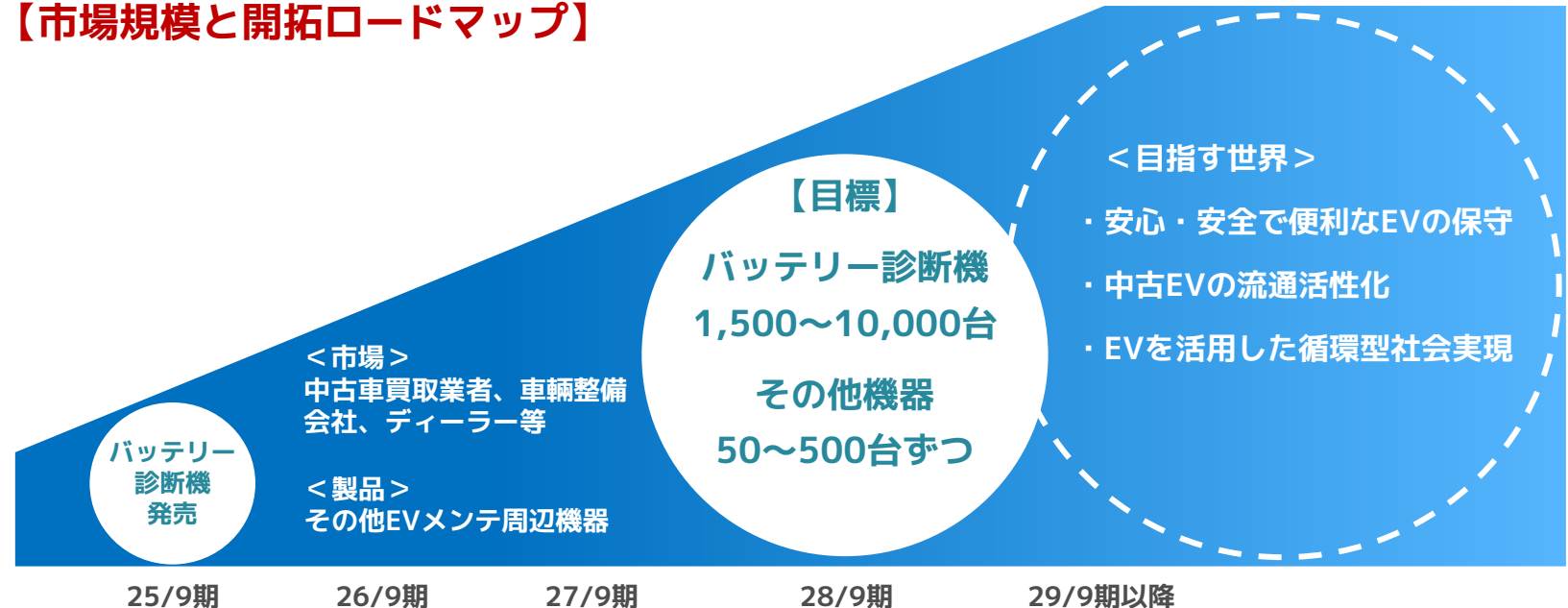


軽量・簡単操作

30秒で測定

リーズナブル価格

【市場規模と開拓ロードマップ】

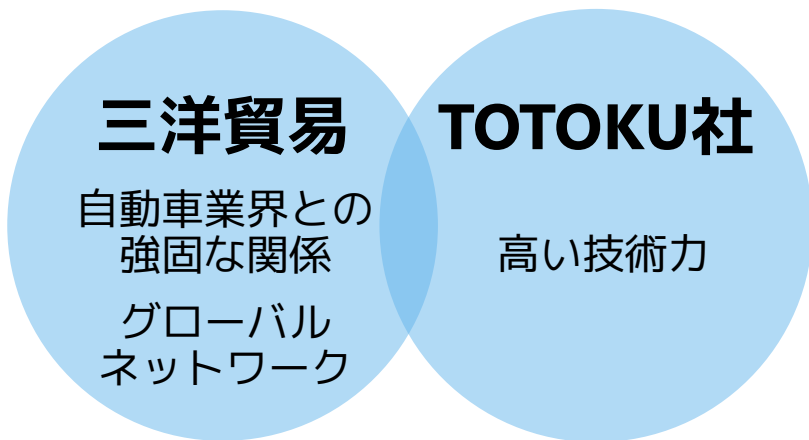


潜在コア事業の例③ (高周波同軸ケーブル)

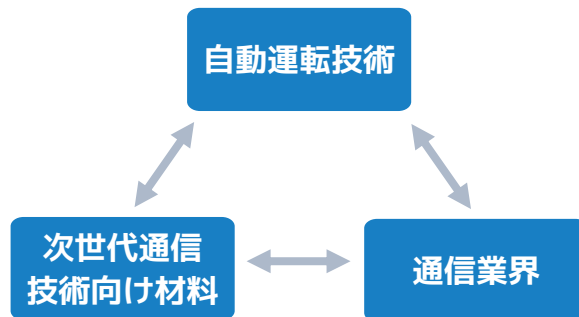
インダストリアル・プロダクツ

- 5G/6G技術の発展で通信量が膨大となる中、高パフォーマンス・省エネ化を両立した高周波同軸ケーブル
- 高い技術力を持つTOTOKU社との相乗効果で、グローバル展開を含めた更なる商圈の拡大

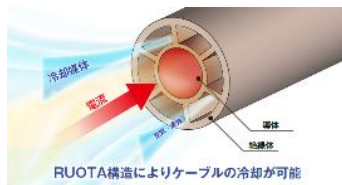
両社の強みを活かした相乗効果



自動車業界のみならず
通信業界にも参入



冷却ケーブル



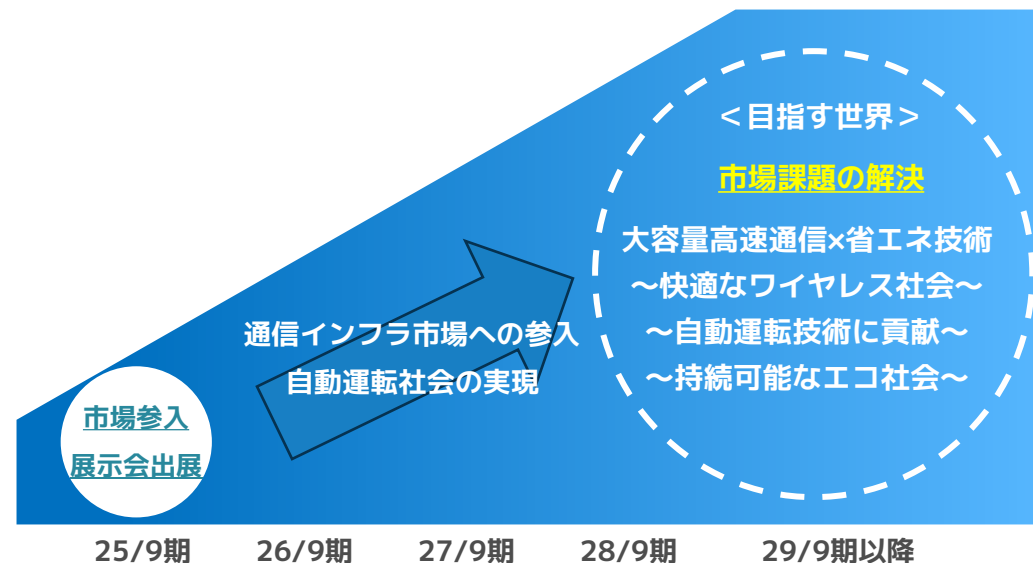
高周波同軸ケーブル



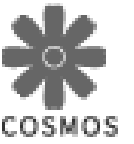
高周波同軸アセンブリ



【市場規模と開拓ロードマップ】



潜在コア事業の例④ (洋上風力発電)



サステナビリティ

- 洋上風力発電に関わる多様な機器の取扱いによりお客様へのトータルソリューション提供が可能
- 浮体式の進行に伴い、27/9期から本格的な収益化実現を目指す

【着床式 洋上風力発電】 【浮体式 洋上風力発電】



水深の**浅い**海域
での着床式



水深の**深い**海域
での浮体式



今まで**設置が適わなかった海域**
で発電が可能

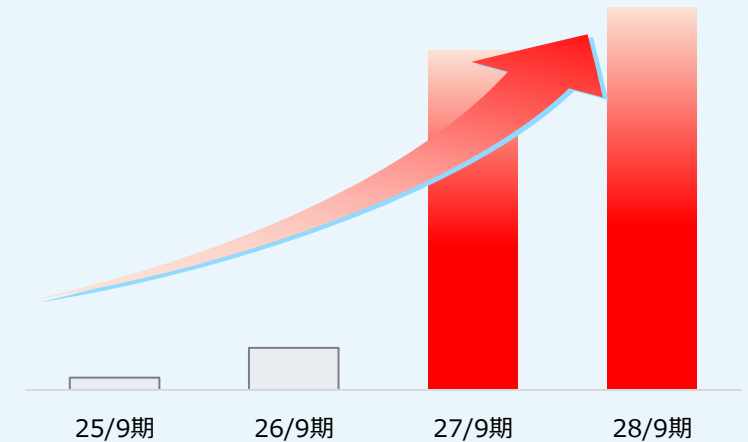
【取扱い機器】



取扱い機器の多さを強みとする

【洋上風力発電 売上金額イメージ】

※着床式、浮体式の合算



27/9期以降 本格的な収益化を見込む

潜在コア事業の例⑤ (新機能性飼料)



株式会社 **ワイピーテック**

サステナビリティ

■ 乳牛における革新的なメチオニン※1 「メタスマート」 日本初上陸

フランス・Adisseo社の養牛向けメチオニン製剤「2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステル（略称：HMBi/商品名：メタスマート）」が農水省に指定（登録）され、輸入販売可能に

■ 日本の酪農界に革新をもたらすことを期待

※1:メチオニン

家畜の成長を促進し、飼料の効率を高めるために不可欠な栄養素。メタスマートは、牛のルーメン微生物と生体の両方で利用されるメチオニン源となっており、ペレット化が可能な唯一の製品。

飼料添加物 2-デアミノ-2-ヒドロキシメチオニンイソプロピルエステル(HMBi)

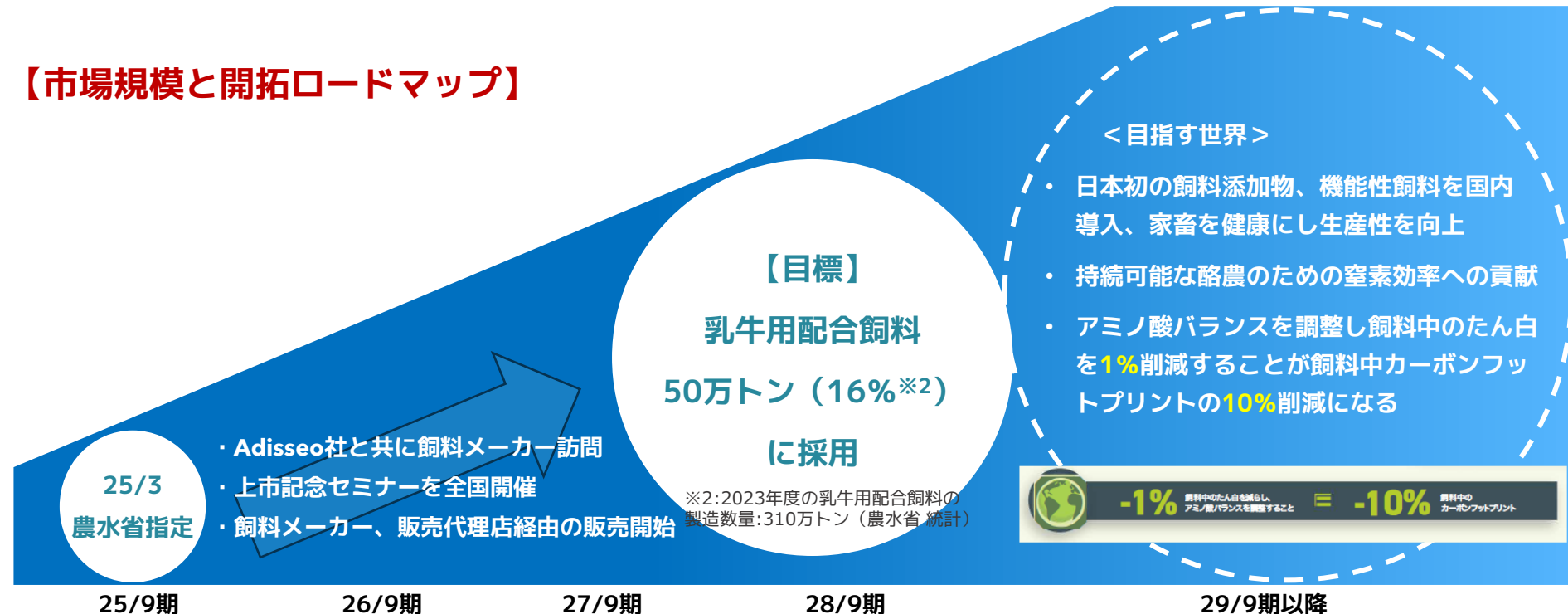
メタスマート **新発売**

パフォーマンスを最大化するために
1つの製品で2つのアクション
健康と生産性の両立

科学的根拠のある試験データ、
革新的なメチオニン製剤、日本初上陸!

株式会社ワイピーテック

【市場規模と開拓ロードマップ】



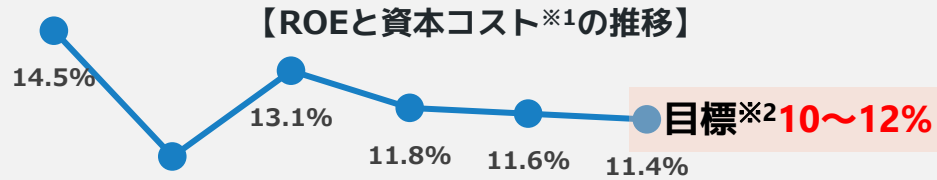
Quest for Next

Appendix

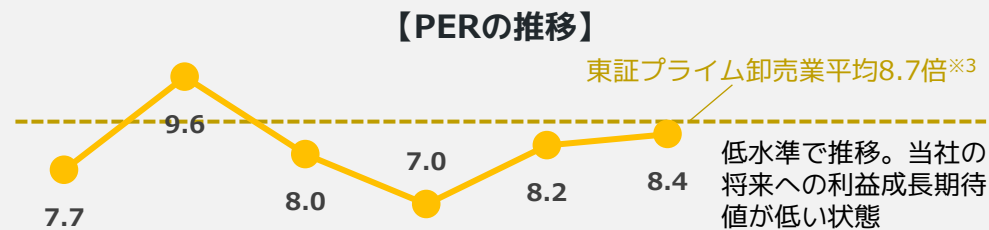
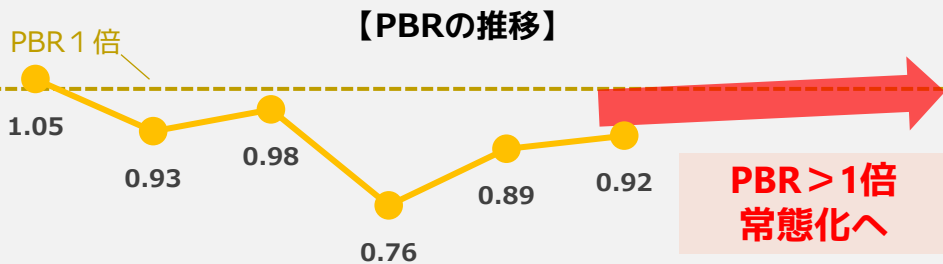
資本コストと株価を意識した経営

- ROEは資本コストを上回って推移。資本コストを上回るROEの水準(目標10~12%)を継続し、ROE向上への取り組みを継続的に実施しながら、PBR > 1倍の常態化を目指す

現状分析



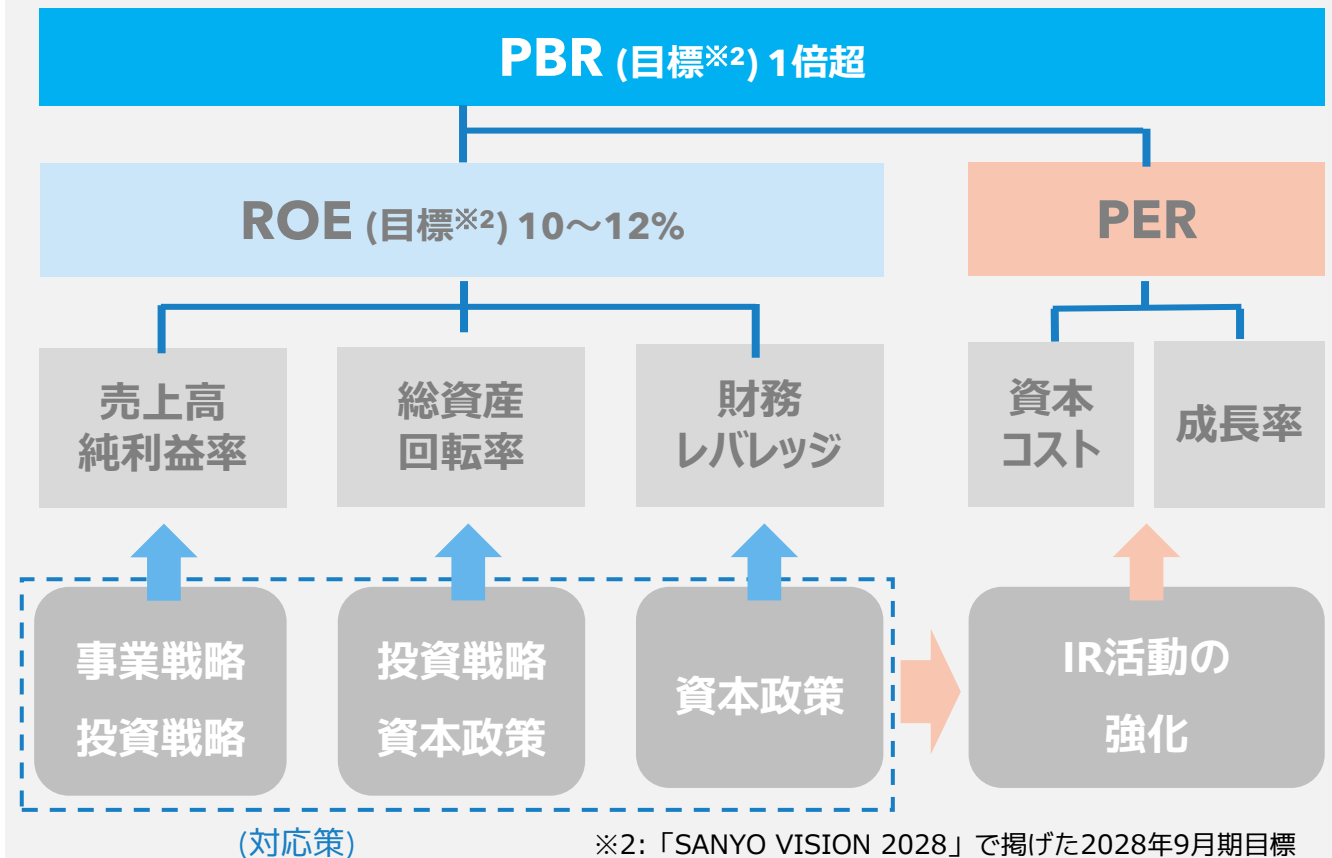
※1:資本コストは従来、CAPMによる算出で5~6%と開示してきたが、算出に用いるパラメータの取り方等により数値には振れ幅があることに鑑み、数値レンジの認識を一定程度上方に修正



2019.09 2020.09 2021.09 2022.09 2023.09 2024.09 ... 2028.09

※3: 2024年3月末時点

PBR目標達成の戦略



ROEの構造分析

成長事業への投資
(潜在コア事業・M&A)

他人資本
有効活用

適正なアセットマネジメント

高利益率の維持

ROE

=

Leverage

財務レバレッジ

A

総資産(719億円)

E

自己資本(455億円)

1.6倍

Asset Turn

総資産回転率

T

売上高(1,292億円)

A

総資産(719億円)

1.8回転

Profit Margin

売上高純利益率

R

純利益(52億円)

T

売上高(1,292億円)

4.0%

(実績)
2024年
9月期

11.4%

厚い自己資本

アセットライトな
ビジネスモデル

高付加価値商材 X サービス =
高収益率

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産の部	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期2Q (2025.3末)	負債の部	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期2Q (2025.3末)
現金・預金	8,007	10,918	支払手形・買掛金	12,573	12,197
受取手形・売掛金等	26,694	25,654	短期借入金	4,458	3,158
棚卸資産	25,180	24,826	その他流動負債	8,567	9,747
その他流動資産	3,225	3,991	長期借入金	50	50
有形固定資産	3,160	3,456	その他固定負債	1,931	1,795
その他固定資産	9,123	8,297	純資産	47,809	50,196
資産合計	75,390	77,145	負債純資産合計	75,390	77,145

【ポイント】

- ・ 売上増加に伴い、所要運転資金が増加

	2024年9月期4Q (2024.9末)	2025年9月期2Q (2025.3末)
有利子負債比率	9.4%	6.4%
自己資本比率	63.3%	65.0%

算出方法) 有利子負債比率 : 有利子負債 (※1: リース債務除く) ÷ 自己資本 (※2)
 自己資本比率 : 自己資本 ÷ 期末総資産

(※1) 有利子負債 = 短期借入金 + 長期借入金
 (※2) 自己資本 = 純資産 - 新株予約権 - 非支配株主持分

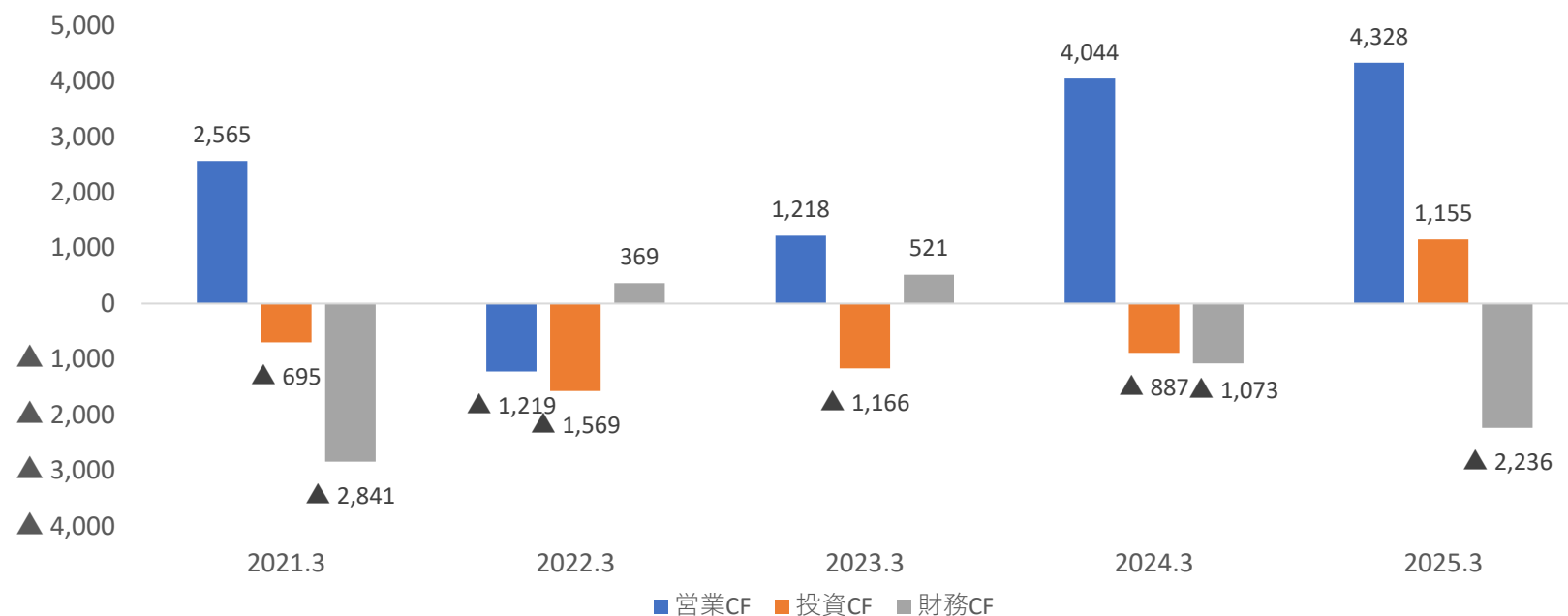
連結キャッシュフロー

営業CF：適切な在庫管理等により黒字継続

投資CF：投資有価証券の売却や定期預金の預入による収入

財務CF：配当金の支払や短期借入金の返済

(単位：百万円)



	2021.3	2022.3	2023.3	2024.3	2025.3
営業CF+投資CF+財務CF	▲ 970	▲ 2,419	573	2,082	3,246
現金及び現金同等物の残高	9,648	6,605	6,218	8,895	10,664

IRに関するお問い合わせ先

三洋貿易株式会社 取締役兼執行役員 経営企画部長 難波 嘉己

電話：03-3518-1052 e-mail：ir@sanyo-trading.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。